



## 獅子搏兎（ししはくと）



津島市立神守中学校長 小林秋良

闇夜の向こうに、どんよりとした曇り空。

「体育祭は実施できるだろうか。無理かな。」これが当日起床した時の私の偽らざる心境でした。前日の雨で前日準備はできていません。「体育科の先生方は、もう作業してみえるだろうか。」そう思いながら、4時過ぎに家を出ました。学校に着き、グラウンドを見に行きました。暗闇の中を軽トラがぐるぐる走り回っていました。聞くと、4時からグラウンド整備を始めたとのこと。1時間かけてグラウンド整備。その後1時間かけてライン引き。ライン引きが終わった6時には、ほとんどの先生方が各自の担当の準備を始めてみえました。これが、わが神守中の先生方の動きです。まず、体育科の先生方に『感謝』、そして、その他の先生方にも『感謝』です。生徒会のみなさんが考えた今年のテーマ「獅子搏兎」（ししはくと：どんなことにも全力で取り組む。）は、体育祭開始前のグラウンドで先生方が実践してみえました。

さて、予定通り開始できた体育祭。今年も生徒のみなさんの素晴らしい入場行進から始まりました。入場行進と応援合戦は、審査員の評価で順位が決まります。自分のブロックの勝利のために一所懸命に取り組む生徒のみなさんの順位づけをすることは、「大変むずかしい。心苦しい。」と各審査員の方々がおっしゃいました。私もその通りだと思いました。また、ブロックで作られる人の輪（円陣）は、昨年からよく見受けられるようになりました。この人の輪は、今年は特に何度も作られました。今後、ブロックの団結を表す“神守の輪”として定着していくことでしょう。

文化祭。9月の練習日数は8日間でした。時間が限られているからこそ、集中して取り組むことができたと言えます。しかし、このように言うは易し、行うは難しです。実際にこの短時間で本番までに仕上げた生徒のみなさんの努力には、頭が下がるばかりです。曲に自分の想いを込めて全身で歌った生徒のみなさんからは、心に熱いものをもらいました。どんな時にも、獅子搏兎を実践した生徒のみなさん、たくさんの方の感動をありがとう。

最後になりましたが、保護者の皆様・地域の皆様には、この2日間温かい声援をたくさんいただきました。この紙面を借りて、お礼申し上げます。